



平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月1日

上場取引所 東

上場会社名 持田製薬株式会社

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 専務執行役員 (氏名) 青木 誠

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日

配当支払開始予定日

平成22年12月1日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	39,025	△0.6	6,655	△17.9	6,960	△17.4	3,885	△34.4
22年3月期第2四半期	39,247	5.2	8,108	22.8	8,428	20.2	5,918	27.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	34.93	—
22年3月期第2四半期	51.83	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	108,824	80,780	74.2	730.28
22年3月期	106,845	79,768	74.7	714.68

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 80,780百万円 22年3月期 79,768百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	11.00	—	14.00	25.00
23年3月期	—	11.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	11.00	22.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	79,000	0.6	11,000	△21.1	11,700	△21.6	7,200	△27.0	65.09

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、[添付資料]P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 123,000,000株 22年3月期 123,000,000株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 12,384,484株 22年3月期 11,385,768株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 111,248,301株 22年3月期2Q 114,205,373株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表日時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
4. 補足情報	9
(1) [連結]設備投資、減価償却費、金融収支、研究開発費	9
(2) 主要製品の売上高	10
(3) 医薬品開発状況	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

医療費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制諸政策が継続的に進められ、また国内外の企業間競争が一段と激化するなど、医薬品業界は引き続き厳しい環境下にあります。本年4月には「新薬創出・適応外薬解消等促進加算」の試行的導入を含む平成22年度薬価改定が行われ、事業環境の変化にいつそう拍車がかかりました。

このような状況下、当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点4領域（循環器、産婦人科、皮膚科、救急）にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目指して、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。

ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、390億2千5百万円、前年同期比0.6%の減収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では経口プロゲスチン製剤の子宮内膜症治療剤「ディナゲスト」が売上高を伸ばしたものの高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」および持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」が前年同期売上高を下回るなど、薬価改定の影響等により、372億6千4百万円、前年同期比0.4%の減収となりました。

ヘルスケア事業は市場が低迷しているなか、抗真菌剤配合シャンプー・リンス等の抗菌ケア製品が伸び悩み、売上高は17億6千1百万円で、前年同期比4.0%の減収となりました。

次に当第2四半期連結累計期間の利益面ですが、薬価引下げに伴う売上原価率の上昇および研究開発費の増加等により、営業利益は66億5千5百万円、前年同期比17.9%の減益となりました。また、経常利益は69億6千万円で前年同期比17.4%の減益、四半期純利益は38億8千5百万円で前年同期比34.4%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、敗血症治療薬（抗体医薬）、疼痛治療薬および糖尿病治療薬の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、抗うつ剤「MLD-55」を製造販売承認申請中です。その他の開発パイプラインも順調に進捗しており、肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-0701」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、バイオ後続品G-CSF製剤「FSK0808」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、「エパデール」の非アルコール性脂肪肝炎の臨床第Ⅱ相試験（米国）、およびヒト間葉系幹細胞を利用した細胞性医薬品「JR-031」の移植片対宿主病（GVHD）を対象とした臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験をそれぞれ実施中です。潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」については臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験の準備中で、「ベセルナクリーム」は日光角化症を対象とした臨床第Ⅱ相試験を終了しております。なお、「エパデール」のスイッチOTC薬については製造販売承認申請中です。

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は46億9百万円です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第2四半期連結会計期間末の総資産は、1,088億2千4百万円となり、前連結会計年度末比で19億7千9百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に投資有価証券の時価の減少がありましたが、流動資産のその他が増加したためです。負債・純資産の増加は、主に配当金、法人税等の支払がありましたが、長期借入金の借入れや四半期純利益により増加したためです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、272億2千万円となり、前連結会計年度末比で7億8千6百万円増加いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払などがありましたが、税金等調整前四半期純利益などにより29億5千8百万円の収入（前年同期比44.8%減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形・無形固定資産の取得による支出などにより12億2千万円の支出（前年同期は5億5千8百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入などがありましたが、配当金の支払や自己株式の取得などにより9億5千万円の支出（前年同期は17億1百万円の支出）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移しているため、平成22年5月14日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付額の算定に関しては、加味する加減算項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められない場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックスプランニングを利用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益が9百万円減少し、税金等調整前四半期純利益が198百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は241百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,516	24,633
受取手形及び売掛金	23,625	23,672
有価証券	10,323	9,321
商品及び製品	7,728	6,766
仕掛品	1,557	2,379
原材料及び貯蔵品	2,652	2,526
繰延税金資産	2,752	2,829
その他	4,599	1,687
貸倒引当金	△0	△4
流動資産合計	76,756	73,812
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,242	7,216
機械装置及び運搬具(純額)	2,637	2,724
土地	6,088	6,088
建設仮勘定	852	694
その他(純額)	1,255	1,311
有形固定資産合計	18,077	18,036
無形固定資産		
投資その他の資産		
投資有価証券	7,886	8,805
繰延税金資産	2,856	2,893
その他	1,997	1,893
投資その他の資産合計	12,740	13,591
固定資産合計	32,067	33,033
資産合計	108,824	106,845

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,112	7,396
短期借入金	687	500
未払法人税等	1,986	3,161
賞与引当金	2,414	2,649
その他の引当金	822	920
その他	6,556	6,422
流動負債合計	20,579	21,050
固定負債		
長期借入金	1,312	—
繰延税金負債	105	107
退職給付引当金	4,816	4,887
その他	1,230	1,033
固定負債合計	7,464	6,027
負債合計	28,043	27,077
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	82,899	80,577
自己株式	△11,248	△10,380
株主資本合計	80,752	79,298
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	28	469
評価・換算差額等合計	28	469
純資産合計	80,780	79,768
負債純資産合計	108,824	106,845

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	39,247	39,025
売上原価	14,397	14,903
売上総利益	24,849	24,121
返品調整引当金戻入額	2	1
差引売上総利益	24,851	24,122
販売費及び一般管理費	16,742	17,466
営業利益	8,108	6,655
営業外収益		
受取利息	32	21
受取配当金	103	107
ロイヤリティ収入等	345	126
その他	110	87
営業外収益合計	593	342
営業外費用		
支払利息	19	18
支払手数料	—	12
持分法による投資損失	230	—
その他	24	7
営業外費用合計	274	38
経常利益	8,428	6,960
特別利益		
貸倒引当金戻入額	0	4
固定資産売却益	0	0
関係会社株式売却益	1,139	—
特別利益合計	1,140	4
特別損失		
固定資産除売却損	12	40
固定資産撤去費用	11	31
投資有価証券評価損	—	174
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	189
特別退職金	—	222
特別損失合計	23	657
税金等調整前四半期純利益	9,544	6,307
法人税等	3,625	2,421
少数株主損益調整前四半期純利益	—	3,885
四半期純利益	5,918	3,885

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,544	6,307
減価償却費	1,299	1,291
固定資産除売却損益(△は益)	11	39
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	189
投資有価証券評価損益(△は益)	—	174
関係会社株式売却損益(△は益)	△1,139	—
持分法による投資損益(△は益)	230	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	△234	△235
退職給付引当金の増減額(△は減少)	19	△70
受取利息及び受取配当金	△136	△128
支払利息及び支払手数料	29	31
売上債権の増減額(△は増加)	△602	47
たな卸資産の増減額(△は増加)	△86	△266
その他の流動資産の増減額(△は増加)	263	△1,914
仕入債務の増減額(△は減少)	179	716
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△66	240
その他	△790	△382
小計	8,522	6,034
利息及び配当金の受取額	136	129
利息及び手数料の支払額	△28	△31
法人税等の支払額	△3,273	△3,173
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,357	2,958
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,700	△3,700
定期預金の払戻による収入	3,200	3,600
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,216	△1,122
関係会社株式の売却による収入	1,170	—
その他	△11	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△558	△1,220
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	1,500
長期借入金の返済による支出	△300	—
配当金の支払額	△1,368	△1,562
自己株式の取得による支出	△45	△877
自己株式の売却による収入	29	8
その他	△16	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,701	△950
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,097	786
現金及び現金同等物の期首残高	20,377	26,434
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,475	27,220

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。
- (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) [連結]設備投資、減価償却費、金融収支、研究開発費

1. 設備投資

	平成22年3月期	平成23年3月期
第2四半期	561 百万円	1,018 百万円
通 期	1,757 百万円	(予) 2,200 百万円

2. 減価償却費

	平成22年3月期	平成23年3月期
第2四半期	1,299 百万円 (うち、有形 1,103 百万円)	1,291 百万円 (うち、有形 1,003 百万円)
通 期	2,828 百万円 (うち、有形 2,328 百万円)	(予) 2,800 百万円 (うち、有形 2,200 百万円)

3. 金融収支

	平成22年3月期	平成23年3月期
第2四半期	107 百万円	97 百万円
通 期	112 百万円	(予) 190 百万円

4. 研究開発費

	平成22年3月期	平成23年3月期
第2四半期	4,023 百万円 (売上高比 10.3%)	4,609 百万円 (売上高比 11.8%)
通 期	9,589 百万円 (売上高比 12.2%)	(予) 11,000 百万円 (売上高比 13.9%)

(2) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(平成23年3月期 第2四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成22年3月期		当 期 平成23年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第2四半期 実績	年間 実績	第2四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	188	375	180	362	△ 4
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	72	149	71	153	△ 2
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	16	36	23	44	+ 38
抗ウイルス剤 アラセナーA	13	25	12	23	△ 1
膵炎・ショック治療剤 ミラクリッド	11	21	10	19	△ 7
自律神経調整剤 グランダキシン	8	16	7	15	△ 9
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	8	17	8	14	+ 0
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	7	13	6	13	△ 3
止血剤 トロンビン	6	13	5	11	△ 13
真菌症治療剤 フロリード	6	11	6	11	△ 11
スキンケア製品 コラージュ類	14	28	14	30	△ 5
スキンケア製品 スキナ類	3	6	3	6	+ 2

(3) 医薬品開発状況

医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
MLD-55(未定、エシタロプラム) : デンマーク ルントベック社から導入			
* 承認申請中	うつ病	経口剤	
MD-0701(未定、トレプロスチニル) : 米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	
FSK0808(未定、遺伝子組換えG-CSF) : 富士製薬工業(株)と共同開発			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	好中球減少症	注射剤	バイオ後続品
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相準備中	潰瘍性大腸炎	経口剤	
MTD-39(ベセルナクリーム、イキモト) : 豪国アキノバ・ファーマシューティカルズ社から導入			
臨床第Ⅱ相終了	日光角化症	外用剤	<効能追加>
MND-21(エパデール、イコサペント酸エチル)			
臨床第Ⅱ相	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	<効能追加>
MR-20V(未定、ウナスタチン)			
臨床第Ⅱ相	切迫早産	腔坐剤	<剤型追加・効能追加> 一時中断
JR-031(未定、ヒト間葉系幹細胞) : 日本ケミカルリサーチ(株)と共同開発			
臨床第Ⅰ/Ⅱ相	移植片対宿主病	注射剤	細胞性医薬品

*変更等のあった品目